

歴史・文化サイトカード

通しNo.	1-B-7		更新日	2025/2/20
サイト名	ながはま 園の長浜に鎮まる国引きの神々～長浜神社			
基本情報	区分	<input checked="" type="checkbox"/> 有形 <input type="checkbox"/> 無形 <input type="checkbox"/> その他		
	所在地	出雲市西園町上長浜4		
	指定別			
	種別			
	指定／登録年月日			
	管理団体／モニタリング	長浜神社		
	周辺施設／アクセス	<input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> 売店 <input type="checkbox"/> 飲食店 <input type="checkbox"/> 駐車場(　台)		
	留意点			
サイトの解説	歴史・文化	<p>主祭神は『出雲国風土記』の冒頭で、「国来国来(くにこ、くにこ)」と出雲の国を国引きした八束水臣津野命(やつかみずおみづぬのみこと)。長浜神社は国引きした綱の跡と云われる園の長浜の一角にある。</p> <p>『古事記』によると、この国引き神話の神様は淤美豆奴神(おみづぬのかみ)として素戔鳴尊(すさのおのみこと)の5代後に登場しており、その妻は布帝耳命(ふてみみのみこと)、その2代後に大国主命が誕生している。このようなことから、長浜神社は大国主命(おおくにぬしのみこと)の祖父母が祀られているとも伝えられている。</p> <p>当社は、昔は妙見(みょうけん)大社と呼ばれていた。妙見とは、北天にあって動かない北極星を宇宙の全てを支配する最高神とし、その傍らにあって、最高神の乗り物とも言われる北斗七星は人々の行いを監視し、人の生死禍福を支配するとして、北極星と北斗七星を祀るもの。この妙見に祈ることで邪を除き、福がもたらされ、長生きできるとの信仰で、大陸から道教の教えとして伝わったとされている。</p>		
	地形・地質、生物・生態等	長浜神社のある妙見山一帯には、古砂丘を新規砂丘が覆っている。古砂丘には13-18万年前の氷期や最終氷期の発達した時代に堆積した風生塵(ふうせいじん)である1m程度の厚さのレス層がみられる。レスは黄土ともよばれ、中国大陸から飛来した石英や長石の微細な鉱物粒子(1-10ミクロン; 1mm=1000μm)よりなる。黄砂の原因となる粒子である。この一帯の古砂丘は、国内の古砂丘の形成年代と比較して古いため、学術的に貴重な場所となっている。		
写真・図等				
参考文献		成瀬敏郎・山内靖喜・豊島武幸編(2013)『出雲の山・川・平野・海岸—地形地質の点描』175頁。		